

# 災害の概況と推移

# 火災 - Fire -



## 1 火災発生内訳（令和3年中）

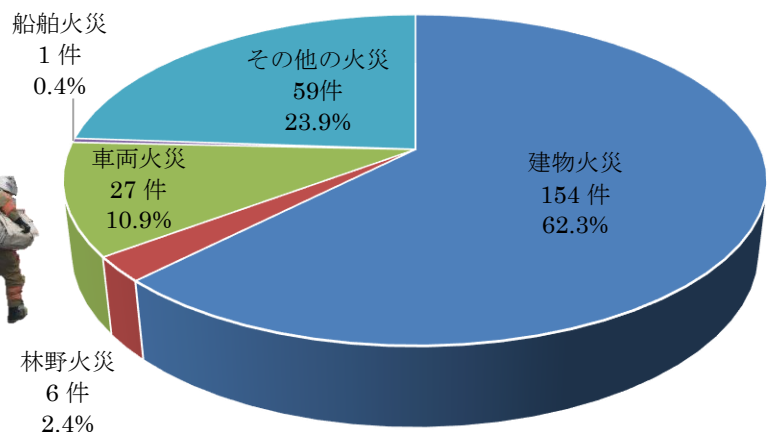
令和3年中に広島市消防局管内で発生した火災は247件で、これにより15人の死者と39人の負傷者が発生した。また、損害額は合計で8億277万円、建物の焼損面積は6,293㎡であった。

火災種別で見ると、「建物火災」が154件で約6割を占めており、前年から9件増加している。また、「車両火災」は27件で、前年から11件増加している。

区分	年別	令和3年	令和2年	増減
火災件数（件）		247	229	18
建物火災		154 (62.3%)	145 (63.3%)	9
林野火災		6 (2.4%)	5 (2.2%)	1
車両火災		27 (10.9%)	16 (7.0%)	11
船舶火災		1 (0.4%)	0 (0.0%)	1
その他の火災		59 (23.9%)	63 (27.5%)	△4
損害額（千円）		802,773	270,035	532,738
建物焼損面積（㎡）		6,293	3,727	2,566
林野焼損面積（a）		39	11	28
死者（人）		15	5	10
負傷者（人）		39	51	△12



【火災種別の割合】



※ 各内訳の割合数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

## 2 過去10年間の火災件数等の推移

この10年間の火災件数の推移をみると、420件であった平成25年以降、おおむね減少傾向となっているが、火災による損害額及び建物焼損面積については、令和3年に大きく増加している。

年別	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
火災件数(件)	395	420	378	305	299	316	260	277	229	247
損害額(10万円)	4,940	7,898	6,359	4,488	4,905	4,742	5,396	3,614	2,700	8,028
建物焼損面積(m <sup>2</sup> )	3,953	7,311	5,700	5,188	3,358	4,082	4,068	3,690	3,727	6,293
死者(人)	12	9	30	20	5	8	10	9	5	15
負傷者(人)	60	50	65	64	54	60	49	40	51	39

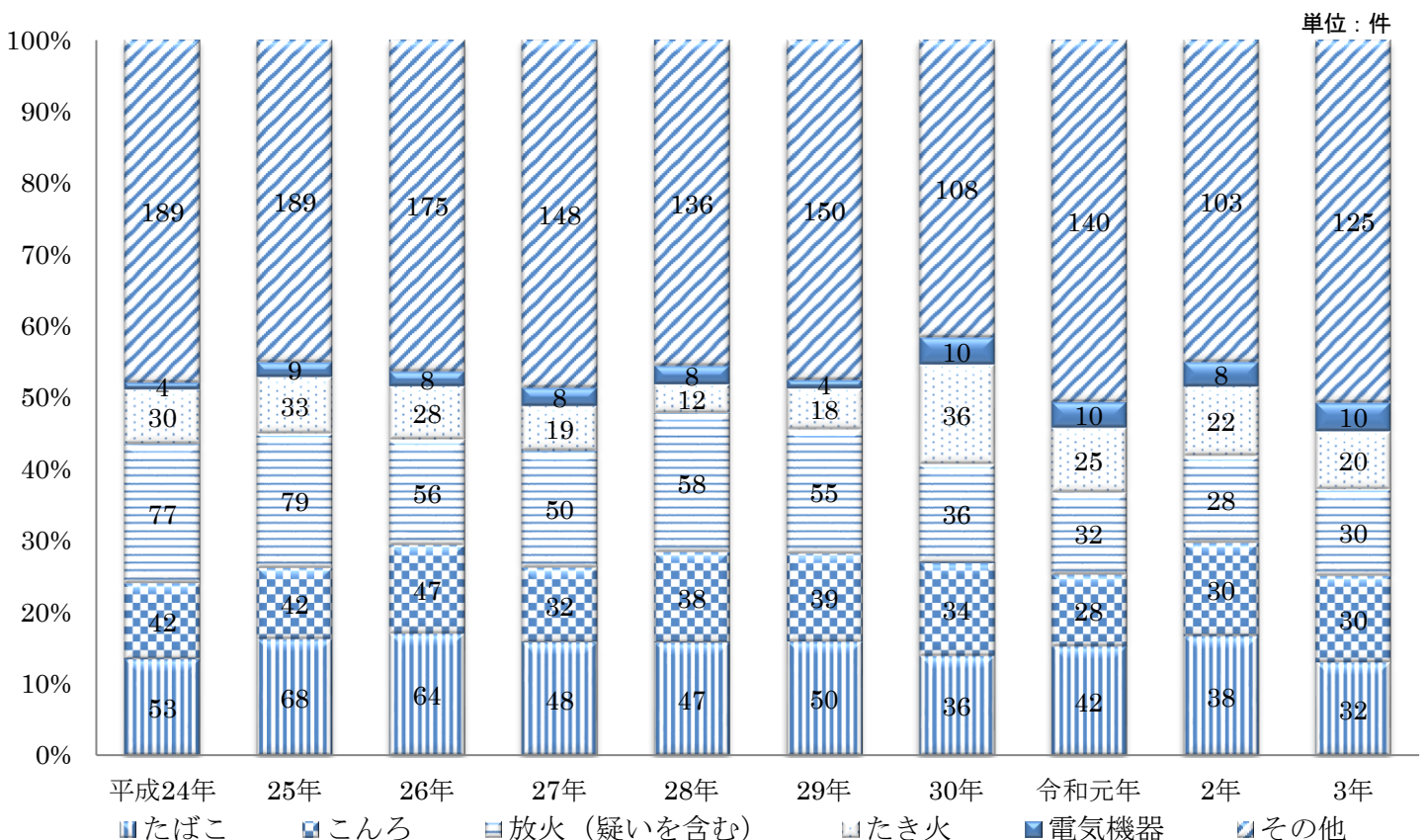
## 3 出火原因別火災件数(令和3年中)

令和3年中の火災を出火原因別にみると、「たばこ」が32件(13.0%)で最も多く、次いで「こんろ」、「放火(疑いを含む)」がそれぞれ30件(12.1%)となっている。

区分	総数	たばこ	こんろ	放火(疑いを含む)	たき火	電気機器	その他
件数	247	32	30	30	20	10	125
構成比	100.0%	13.0%	12.1%	12.1%	8.1%	4.1%	50.6%

## 4 過去10年間の火災原因の構成比

出火原因の推移をみると、「放火(疑いを含む)」による火災は、平成24年以降、多くの年で出火原因の第1位となっていたが、平成30年からは「たばこ」による火災が同数で並び、以降は現在に至るまで「たばこ」による火災が第1位となっている。



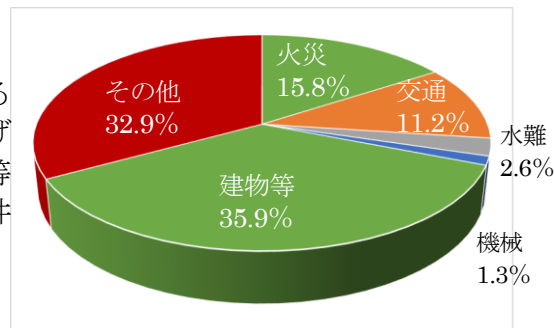
# 救助 - Rescue -



## 1 救助件数内訳（令和3年中）

令和3年中の広島市消防局管内の救助件数は、1,021件で、前年の872件と比較して149件の増加となった。

件数の内訳は、建物内に閉じ込められる事故などが該当する「建物等による事故」が367件で全体の35.9%を占め、他に掲げる事故以外の事故で、消防機関による救助を必要としたもの等が該当する「その他の事故」が336件(32.9%)、「火災」が161件(15.8%)となっている。

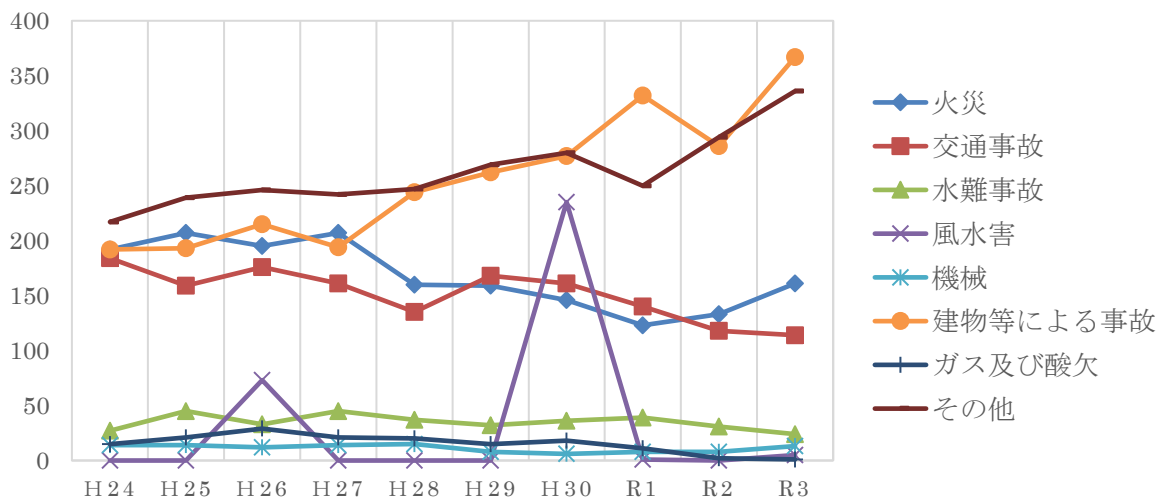


## 2 過去10年間の救助件数の推移

過去10年間の救助件数の推移をみると、平成24年の841件に対し約21%の増加となっている。

年別	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
救助件数	841 (100)	878 (104)	979 (116)	884 (105)	858 (102)	913 (109)	1,159 (138)	904 (107)	872 (104)	1,021 (121)	
内 訳	火 災	192 (100)	207 (108)	195 (102)	207 (108)	160 (77)	159 (99)	146 (92)	123 (84)	133 (108)	161 (84)
	交通事故	184 (100)	159 (86)	176 (96)	161 (88)	135 (73)	168 (91)	161 (88)	140 (76)	118 (64)	114 (62)
	水難事故	27 (100)	45 (167)	33 (122)	45 (167)	37 (137)	32 (119)	36 (133)	39 (144)	31 (115)	24 (89)
	風水害等 自然災害	0 (100)	0 (100)	73 (-)	0 (100)	0 (100)	0 (100)	235 (-)	1 (-)	0 (100)	5 (-)
	機械に よる事故	14 (100)	14 (100)	12 (86)	14 (100)	15 (107)	8 (57)	6 (43)	8 (57)	8 (57)	13 (93)
	建物等 による事故	192 (100)	193 (101)	215 (112)	194 (101)	244 (127)	262 (136)	277 (144)	332 (173)	286 (149)	367 (191)
	ガス及び 酸欠事故	15 (100)	21 (140)	29 (193)	21 (140)	20 (133)	15 (100)	18 (120)	11 (73)	2 (13)	1 (7)
	その他の 事 故	217 (100)	239 (110)	246 (113)	242 (112)	247 (114)	269 (124)	280 (129)	250 (115)	294 (135)	336 (155)

【備考】 () 内は、平成24年を指数100として表した数値である。



# 救急 - Ambulance -



## 1 令和3年中の救急出動件数の推移

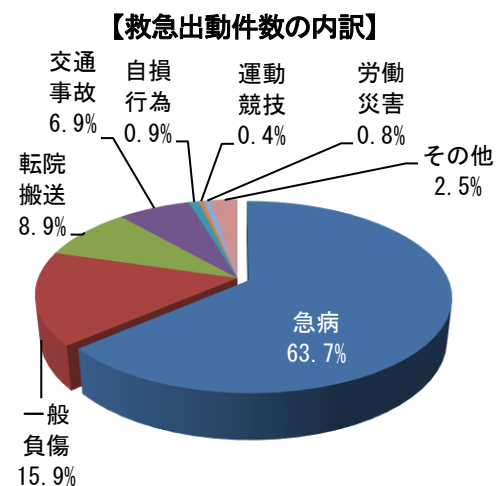
令和3年中の出動件数は、59,359件で、前年と比較すると3,976件(7.2%)増加し、搬送人員は50,651人で3,533人(7.5%)の増加であった。これを一日に平均すると約163件出動し、約139人搬送したこととなり、約9分に1件の割合で救急出動がされたこととなる。

事故種別でみると、「急病」が37,834件で最も多く、全体の約6割を占めており、前年と比較して2,786件の増加となった。次いで多いのは「一般負傷」で9,425件、「交通事故」は4,074件となっている。前年と比較して「一般負傷」は496件の増加、「交通事故」は39件の減少となっている。

平成12年4月1日からはヘリコプターによる救急搬送業務を開始しており、令和3年中は46件救急出動し、19人の搬送を行っている。



区分	年別	R3年	R2年	増減	増減率
出動件数		59,359	55,383	3,976	7.2
急病		37,834	35,048	2,786	7.9
一般負傷		9,425	8,929	496	5.6
転院搬送		5,284	4,813	471	9.8
交通事故		4,074	4,113	△39	△0.9
自損行為		562	523	39	7.5
運動競技		242	214	28	13.1
労働災害		451	387	64	16.5
その他		1,487	1,356	131	9.7
搬送人員(人)		50,651	47,118	3,533	7.5



※ 各内訳の割合数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

## 2 過去の10年間の救急件数の推移

区分	年別	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
出動件数		53,500 (100)	55,448 (104)	56,045 (105)	57,746 (108)	57,978 (108)	59,752 (112)	61,865 (116)	60,907 (114)	55,383 (104)	59,359 (111)
急病		31,545 (100)	32,856 (104)	33,365 (106)	35,215 (112)	35,733 (113)	36,760 (117)	38,693 (123)	39,036 (124)	35,048 (111)	37,834 (120)
一般負傷		7,655 (100)	7,972 (104)	8,257 (108)	8,257 (108)	8,458 (110)	9,027 (118)	9,166 (120)	9,159 (120)	8,929 (117)	9,425 (123)
交通事故		6,041 (100)	6,202 (103)	5,842 (97)	5,653 (94)	5,420 (90)	5,301 (88)	5,104 (84)	4,686 (78)	4,113 (68)	4,074 (67)

【備考】 ( )内は平成24年を指数100として表した数値である。